

平成27年9月15日

那須烏山市議会議長 佐藤昇市様

経済建設常任委員会委員長 川俣純子

決算審査結果報告書

本委員会に平成27年9月7日に付託された事件は、審査の結果、次のとおり決定したので、那須烏山市議会会議規則（平成17年那須烏山市議会規則第1号）第109条の規定により報告します。

- 1 審査期日 平成27年9月8日（火）及び9日（水）
- 2 審査場所 那須烏山市役所 南那須庁舎 議員控室
- 3 出席委員 川俣純子、小堀道和、相馬正典、佐藤昇市、高田悦男、平塚英教
- 4 説明のための出席者
農政課長 糸井美智子、商工観光課長 堀江功一、環境課長 薄井時夫、
都市建設課長 高田喜一郎、上下水道課主幹 奥澤隆夫、他関係職員
- 5 審査事項 本委員会の所管する農政課、商工観光課、環境課、都市建設課、上下水道課及び農業委員会の平成26年度那須烏山市の一般会計、特別会計及び水道事業会計の歳入歳出決算
- 6 審査結果 本委員会が付託を受けた一般会計、特別会計及び水道事業会計の決算については、全会一致で原案のとおり認定すべきものと決定いたしました。ただし、次のことについて要望し、意見を付することとします。

各課横断的なもの

- ・空き家バンクについて、新制度移行後はさらに実績もあがっているとのことであり評価する。空き家は、活性化の起爆剤となる可能性を秘めているものの、活用されなければ安心安全の面で不安材料となってしまうなど、間口の広い行政課題である。空き家の有効活用に向け全庁をあげて取り組まれない。なお、その際は活用の妨げになるごみや不用物に係り、清掃業務等の斡旋を検討されたい。
- ・特産品開発・六次産業化については、多くの費用や労力をつぎ込んでいるが、なかなか目に見える成果が現れてこない。販路の開拓が最重要課題であるが、同時に安定供給できる体制の構築が不可欠である。市、農協、農業者はもちろん、商工業者、商工会、観光協会等も含めオール那須烏山体制で生き残りをかけ本腰を入れ取り組まれない。

農政課

- ・農業を取り巻く環境が大きく変化する中で、農業従事者の高齢化、後継者不足、農地整備に伴う水利費等の負担増など市の農業には多くの課題が山積している。しかし、大桶での営農集団の法人化などの明るい材料は、難局を乗り切るヒントになりうると考える。これらを足がかりとし、関係機関と連携し、市の

基幹産業たる農業を守り、育てるための指針となる活きた地域農業ビジョンを策定されたい。

- ・ここ数年、市内河川の鮎が不漁であるが、鮎は本市の大切な観光資源の一つであり、交流人口獲得のための有効なツールとなるものである。市としても積極的に関与し早急に対策を施されたい。

商工観光課

- ・新たに整備された大金駅前観光交流施設への案内看板等の整備が不十分である。十分な周知、PRを行い駅前活性化の核として活用されたい。なお、ユネスコ無形文化遺産登録に向け烏山駅前整備が予定されているところであるが、拙速に進めることなく、地域の関係者の声を聞き、真に必要な整備が行えるよう十分時間をかけて進められたい。駅前活性化の鍵は地域の関係者にある。各種イベント時など、駅前に多くの人出が予想される際は地元商店等に協力を求め、その都度仕掛けを施し、活気ある駅前空間を演出されるよう努力されたい。

環境課

- ・ごみ収集に際しては、市民の理解と協力を得た上で徹底した分別を行い、資源になりうるものをリサイクルすることで減量化を図り、地球環境の保全や環境衛生費の圧縮に繋げられたい。

都市建設課

- ・市営住宅使用料について、滞納繰越分を含め全額が納付されたことは大変すばらしいことである。引き続きこの状態が維持できるよう努力されたい。
- ・厳しい財政状況の中、必要な建設事業を少ない自主財源の持ち出しで展開できるよう有利な補助メニューを上手に活用されたい。

上下水道課

- ・有収率が再び低下に転じたことは大変残念である。施設の老朽化など抜本的な問題もあり、簡単に引き上げられるものではないことは理解しているが、県平均と比較しても相当低い値である。現状から脱せられるよう努力されたい。
- ・烏山地区の下水道の接続率が依然として極めて低位であるが、臨戸訪問や各種啓発活動など地道な取組をされていることは評価する。劇的な改善を見込むことは難しい状況ではあるが、引き続き接続率向上に向け粘り強く取り組まれたい。